令和４年度第２回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会概要

〇日　　時：令和４年８月16日（火）17時00分～17時40分

〇場　　所：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所　第２応接室

〇出席委員：清水会長、阿多委員、田島委員、玉置委員、南雲委員、三木委員、山田委員

〇事務局　：府民文化部副理事、万博公園事務所　ほか

Ⅰ　開会

Ⅱ　議題

**○議題　審議会会長の選出について**

（事務局より委員の互選により会長を選出する旨を説明。）

（玉置委員）昨年から万博記念公園の新たな将来ビジョンについて答申案の議論を進めてきた。ビジョンの内容を実現するアクションプランの議論が今後必要となってくる。万博公園には様々な要素があり取組が多岐にわたる。幅広い分野をカバーできるという意味で、観光を専門とする清水委員が適任と考える。

（一　　同）異議なし。

（事務局）それでは、清水委員に会長をお願いする。

（清水会長）観光が重要であるため選出いただいたと認識している。今後、ビジョン策定に向け、各委員の力をお借りしたい。２年間よろしくお願いする。

会長に事故があった際の職務代行については、審議会規則に基づき会長の私から指名することになるが、玉置委員にお願いしたい。

（玉置委員）よろしくお願いする。

**○議題　緑整備部会の設置について**

（清水会長）審議会規則に基づき、必要に応じて、部会を置くことができる。将来ビジョンの基本理念である「緑に包まれた文化公園」の実現に向けては、専門的知見を持った方々に公園の緑について審議していただくことが重要と考える。前期と同様に、自然環境・景観の保全・整備等の調査審議のための「緑整備部会」を設置してはどうか。

（一　　同）異議なし。

（清水委員）部会に属する委員及び部会長については、審議会規則に基づきにより会長が指名する。事前検討をしてきたため、事務局から委員名簿案を配付する。部会委員は名簿のとおりとし、部会長は引き続き、山田委員にお願いしたい。

（山田委員）了解した。

**○議題　万博記念公園の概要について**

**・公園の概要について**

**・パビリオン別館（アネックス）について**

（資料に基づいて事務局から説明）

（清水会長）全体を通して気になる点、質問等はあるか。

（玉置委員）入場者数は現状でコロナ前の８割とのこと。行動制限等がある程度解除されたとはいえ、コロナ前の動員には追い付いていない。無理矢理動員を増やす段階でもないと考えるため、徐々に自然に増えれば良いと思っている。

今後の目玉になりうるものとして、パビリオンのアネックスがあると思う。地理的にも2025年大阪・関西万博とも絡んでくる。極力このアネックスを良い施設にして地方の人やインバウンドの人に楽しんでもらう取組みが重要。本館も含めて、展示ばかり増えても変化が無ければ、一度来た人も繰り返し来てくれないため、ゆっくりできるスペースや展示の変化を考えていきたい。

（三木委員）現在、大阪中之島美術館で岡本太郎展が行われており、当公園も取材を受けるなど注目されていると思う。岡本太郎の再評価は2000年頃から始まっており、太陽の塔が残っていたことが決定的に重要であったと思う。太陽の塔は大阪府民が残して欲しいと思ったから残ったという点と、建築構造的に残るように竹中工務店を始めとした当時の人々がしっかりと作っていた点、これらにより大阪府民の財産になっていると思う。

太陽の塔の内部公開や、中之島美術館での岡本太郎展などにより、岡本太郎の評価が再び高まった。芸術家岡本太郎としての展覧会が都心の美術館で行われることは、再評価の中で大きな位置を占めている。連動して万博公園も評価されるため、上手く連携して欲しい。

また、具体美術協会の展覧会が大阪中之島美術館と国立国際美術館で連携して行われる。具体美術まつりというイベントが、お祭り広場で開催されたが、その映像記録が大阪中之島美術館に寄贈されている。万博公園が保有している資料には具体美術協会のオープンリールもある。万博公園が保有する大量の映像アーカイブやオープンリールと美術館のアーカイブを合わせれば、もっと豊かなものになるため上手く連携して欲しいということは以前から提言している。今後、万博記念公園事務所で保管している資料がアネックスへと移ることになるため、連携して多くの人、研究者、一般の人、またアーティストがそのような人をリサーチして掘り起こす場を持ってもらうことにも期待したい。

（玉置委員）2025年大阪・関西万博の1000日前として色々なイベントがチームエキスポによって行われた。その一つとして、大阪大学箕面キャンパスで70年万博の資料の展示を行った。25年万博のイベント内に70年万博が取り込まれたことは価値がある。今後、70年万博と25年万博を良い形でつないで相乗効果を上げるとともに、70年万博の見直しになれば良いと思った。

（清水会長）私も何か一緒にできることがないか、せっかくであれば70年万博と25年万博が連携できないかと考えていた。

（阿多委員）私は1970年に生まれておらず、万博をリアルに経験していない。昨年、本審議会の委員となったことを機にパビリオン等を見せてもらったが、1970年に考えていた内容はすごくぶっ飛んでいるものが沢山あると感じた。パビリオンを見れば見るほど、当時でもこんなに新しいことを考えていたということが分かり、かなり刺激的であった。今後25年万博をどうしようかと考える人に70年万博を見て欲しい。50年前にここまで考えていた、ここまで考えて良いのだということは、自分にとって新鮮であり、同じことを多くの人に感じてもらえると思う。今までのレガシーを単に展示するのではなく人々の想像力を刺激して、もっと自由に考えて良い、昔の人がこんなことを考えていたと感じるきっかけになって欲しい。そのような観点でアネックスでの展示を検討して欲しい。

Ⅲ　閉会

（次回審議会予定について、事務局から連絡）

以上